

日高川の上流龍神村龍神湯の山の崖下なる岩窟より湧出する炭酸泉である。現今の浴場は近年の改築に係り、上下二棟山に倚り水に臨んで構てゐる。湯槽の裡、坐して前山の雲烟を望むべく、又流に従ふて下す筏を俯瞰すべき好風景の地で、旅舍十戸悉く浴場の北に櫛比し、規模の壯設備の完共に山間の地には想像し得られぬ。未だ海岸の何れに向つても一貫せる車道のないが遺憾であつて、田邊から十二里、高野山がら

伊豆の温泉

中村新太郎

伊豆は新舊幾多の火山群より成る半島である。従つて山巒は重疊し平地に乏しく海岸は良き交通路を作るに困難である。半島であるが爲めに表日本の大道からは離れて居るし、南方太平洋に突出して居るから氣候は溫暖にして、温

も略同じ位で、近頃高野山から自働車を運轉するの說があるが前途尙ほ遼遠であらう。

泉質は炭酸泉、無色透明

湧出量一時間二九七五リットル

溫度攝氏四五度

一浴の氣持好いことは請合うから、一つ健脚の諸君が山中避暑を計畫さるゝならば、是非行つて此の言の眞偽を試みられたい。

潤で樹木と羊齒類に富んでゐる。此等の要素は伊豆をして殆んど島に似た人文を發達させた。史上に觀るが如くに伊豆は字義通りの半島であつた。今では道路も開け殊に交通機關としての自働車が其の能率を發揮するから三島から熱海

への輕井澤峠や、大仁から伊東への柏峠や下田から松崎までの横斷も、大仁から下田への天城越えの縦斷も容易になつた。この暖かく、靜かな伊豆の海岸や溪谷には十九の溫泉地があつて良き靜養、療養地を成して居る。

伊豆の溫泉は三列を成して居る。第一列は東海岸にあるもので伊豆山、熱海、熱川及谷津の溫泉が是である。中央列のものは北豆に於ては狩野川の溪谷に沿ひ奥伊豆即ち天城峠以南に在りては河津川、稻澤川及手石川の溪谷にあるものであつて、狩野川溪谷に在るものは南北の狹帶中に包含されてゐる。此の中帶中にあるものを北から擧げると畑毛、古奈、長岡、修善寺、船原、月ヶ瀬、吉奈、湯ヶ島、湯ヶ野、北湯ヶ野河内、蓮臺寺及び下賀茂の十三であつて猶この他に北湯ヶ野から北西に當つた滑川にも近時溫泉を發見したといふことである。第三列とすべきものは、西海岸の土肥だけで、列とするには足らないが他の二列に比して西に距つた所にあるので假に之を第三列とした。

上述の如く伊豆の溫泉は海岸や又は溪畔即ち高度の低い位置に出て居ることは箱根に於ける溫泉が堂ヶ島、塔ノ澤及び湯本を除いた芦ノ湯以下の數溫泉が土地の高い外輪山の中にあるに比べて著しい違ひで溫泉場からの展望に關して高きに居るといふ觀念を持たせるものは一もないのである。これは箱根火山は硫氣孔を有し時に微弱なる活動をする晩壯年の火山であるのに反して伊豆の火山群は既に老年期に達したものであるが故に其の解剖せられたる溪谷を横切る裂罅より湧出するのに原因すると思ふ。

伊豆の溫泉地中最も有名なものは熱海である。熱海は古き火山の火口内にある處とされて居り海中より凝灰岩の山側にかけて海拔百二十五尺の位置に至るまでの間に略同高線に沿ふ六列の半橢圓線の裂罅に沿うて噴湯する。溫泉が攝氏百度に達する高溫なることゝ湧出量の多きとは此の溫泉場をして日本で多數のものとした主因ではあるが學術上最も面白いのは大湯と稱する泉源が間歇泉であることである。もとは一日

に六回の噴湯を成したものが漸次其の勢を減じて明治三十七八年の交には一日四回八分となり明治四十四年十一月には二回三分に減じ、大正十年七月よりは時々噴湯せなくなつて、この世界に數箇所しかない學術上の價值は勿論のこと自然顯象として面白い間歇泉が瀕死の状態になつたことは獨り熱海町又は静岡縣の歎きである

許りなく、日本の自然愛好者に取つては誠に悲しいことゝなつた。然し最近には他の温泉の或者をして適當に其の噴湯を制限さすと大湯は間歇的に噴湯することが確認された、それで各源泉の權利者は自己の多少の不利益又は不便を犠牲にしても喜んで大湯の復活に應ずると云ふ事であるから、この貴き間歇泉はたとへ衰頽が自然の結果であるとしても近き將來に枯死する様な憂ひがない様になつたのは大に喜ぶべきことである。現今では熱海温泉の源泉は殆んど全部が深さ四十七間以内の鑿井によつて得るものであるが、噴湯は多量の水蒸氣を伴ふのが著しいことで此の水蒸氣の一部は其の熱で眞湯と名

づけられる眞水湯を作ることゝ、食料品の煮沸などに用ひられてはゐるが其の大部分が空中に放出されてゐるのは温泉場の外觀をしてそれらしい、頼母しいものにはするものと天然力を暴殄することに於て熱湯を使用することなしに溝渠に放流するのと歸を一にして居る。天然の恩恵を享受するものは天物を暴殄すべきでない。

熱海の保養地の雄たるのはよき温泉があると云ふことに限られて居ない。煙を吐く雄壯な大島と寄する波に白く縁取られた靜かな初島とを載せてゐる碧き海は此の町の東に亘々と光つて居る、北と西と南との三方は古い火山の開析された外輪山で取り圍まれて冬季の卓越風である北風と西風とを防いで居る。誠に熱海は日本のリヴァエラである。近く小田原以南の鐵路が修築された曉には一年の或時季に首都の社交界の一部がこゝに移されるであらう。多くの明治の文學は町の北東横磯から南東の嶋角魚見を経て錦ヶ浦に至る海岸一帯の風光を美化し民衆化した。エキスカーション地としての日金山即ち

十國峠の登臨は壯快なもので、標牛の「わがそでの記」に、函根の一峯に雲起りて西になびき愛鷹と富士との間に入るや雲行天に向ひて劍拔萬丈、白雲の壁を築き、暫くにし空晴れ函嶺の崔巍、芙岳の清蓉もとに復するの壯觀を誦して誰かこの海拔七七四米なる半島の脊梁に据して「あゝ天地風雲多し、人間なにぞ涕淚のしげきや」を叫ぶの悲壯を味はうのを欲しないものがあらう。

歌神軻遇突智神かぐつちのかみを祀れる伊豆山神社の下の伊豆山溫泉地の地貌は表面稍緩なる山嘴の斷崖を成して海に臨む所であつてよく伊豆東岸の通性を顯はして居る。走湯と呼ばれて居る溫泉の源は此の崖の下の安山岩から流出して居る。湯量多く熱海には見られない大きな浴槽がある。

伊豆東岸の最も大きな平地は伊東である。伊東の溫泉は此の平地から湧出する。溫泉地域は北東方即ち海に面して約九町の底邊を有し南西に向つて約十三町の所に頂點のある三角形を作して居る。此の域内には數百の源泉があつて今

では四十數戸の旅宿がある。此の町はそこが漁村であるといふことよりも溫泉地の故を以て最近二十年間に非常な發達をしたのである。殊に數多くの別荘や隠棲處が散在して居るのは此處が熱海の様に傾斜地ではなくて平衍なものと、溫泉湧出區域の廣いものと、質素な處であつた爲めであつたと思へる。溫泉は寛永年間に發見されたと云ふ出來湯の様に鑿井を用ひずして今でも湧出してゐる者があるし、昨年の地震の時に噴湯して今でも湯の池を作して居る處もあるが多くの二十間から六十數間の深さに鑿井したものである。溫度は最高攝氏五十一度に達するものがあるけれども一般には四十五六度であり猶それ以下のものもある。餘りに濫掘をしたので深き研究と考慮との下に整理改修をするのでなければ微弱なものゝ溫度を増したり分量を増したりすることは出來ないと思へる。實際この溫泉は多分北北東から南南西に走る幾條かの沖積地下の火山岩層より出るのであらうが判然たることを判らせるには相當の調査を要する。溫泉

としてのこの名物はある別荘に浴槽の面積五十坪の千人風呂があり邸内に八個の湯井があることである。伊東の海岸は海水浴に適して居ることが夏季の温泉場としてよい點である。猶ほ南方三里にあつて富士の妹と云はれる大室山は標式的の圓錐形と徑二町餘深さ八十尺の火口を有つて居る。ここに登臨して伊豆七島と四周の火山群の形態を學んだり、此の山をつくる基性の安山岩を採集すると共に火山彈を採することも面白い伊東からのエキスカーションである。

伊豆東岸の他の二つの温泉場たる熱川と谷津とはあまり知られてゐない處である、殊に前者は交通の不便なると海岸の貓額大の平地に一二軒の温泉宿があるばかりである。谷津は谷津川の川口に近い平地にある、古めかしい温泉場である。この南方にある大松山金山を見にゆく者やこの北にある至つて大な樟のある來宮へ參拜する者の宿る處である。近頃東によつた海に近い濱といふ處にも温泉が発見されたと聞いた。

伊豆温泉の中帯に屬する温泉の多くは古い火山岩である。變朽安山岩に關係して出るものが多い様である。而して温泉の多くは明かに北北西から南南東に向ふ裂罅から湧出し、然かもかゝる裂罅は平行せる數條を成し且つ溪谷が東西に亘るが爲めに温泉地に於ける源泉の配分は東西に長く散布して居つて過客をして温泉裂罅が東西に貫くものなりと誤認させる。伊豆に於ける金鑛脈の一般の走向が西北西—東南東なるに一致せずして之と銳角を爲せる温泉裂罅線のあることは何か原因のあることであらう。

中帯に屬する温泉地を北から南に及ぼして其の概況を述べて見る。

畑毛温泉は大場だばの東の奥まつた變朽安山岩より成る大仙山の山際に在る。元來よき温泉地の多くある伊豆では餘り著しくないものであつたが近來畑毛温泉別荘地が出来、文化的の別荘が數軒温泉の近く平地に接した段丘の上に出来た附近にはまだ多くの別荘地たるべき段丘の平面が残されてゐる。温泉は深さ四十間に至る鑿井

より湧出するが溫度攝氏四十一度内外で少しく
溫いのを遺憾とする。別莊地に接して新しい設
備を持つた溫泉宿も出來て、口伊豆にしては閑
寂な物を考へるによい處となつた。

駿豆電車の伊豆長岡驛の西方に狩野川を隔て
ゝ古奈及長岡の溫泉地がある。この地は北北西
から南南東に走り凝灰岩及集塊岩より成る小邱
の一部を占めた地域で、北北西に向つて併走し
た三條の溫泉脈の賦存してゐるのを認めること
が出来る。最も東方のものは古くからあつた古
奈の溫泉を中心として北北西—南南東に長さ千
四百米突の間に亘つて散在する湯井で代表され
るものである。此等の源泉は長岡の溫泉と同様
に明治四十年以來の開鑿に係るもので深さ百三
十四間に達するものがある。溫度も六十八度半
に及び湧出量も甚だ大なるものがあつて發展の
中途にある現時では、湯は使用し盡せぬ状態に
ある。殊に古奈の舊部落の北方に接する小坂地
には幅廣き谷野ありて溫泉地として大に發展す
るの餘地がある。

長岡は古奈の西に當り御陵中の有城しほと稱され
た一小溪に過ぎない、而して明治四十年に於け
る溫泉發見以前は一二の農家があつたのみであ
つたが明治四十三年の開湯式以來急激なる發展
を成し一小市街を成すに到つた。恐く新しい溫
泉町として明治年間に顯はれた尤なるものであ
らう。溫泉は有城の溪谷中に北北西—南南東に
亘る溫泉脈に沿うて湧出するので鑿井の深さは
百五十間に達するものがあつて溫泉の溫度は攝
氏七十度に及ぶ、噴湯するものがあるが多くは唧
筒を以て揚水して居る。長岡溫泉の所在地は地
餘りに狭きと、旅館と雜貨店と相比櫛するが故
に趣に乏しい、たゞ伊豆の溫泉中最も民衆化せ
られた點に於て著しい。時の経過と共に新開町
と云ふ蕪雜さが消えて落ち付いた處となつて欲
しいものである。長岡溫泉市街より西に邱阜を
越えれば舊來の長岡溪谷の東側に田端の溫泉地
がある。こゝの源泉は其の數少ないが矢張り北
北西の方向を取つた溫泉脈があることを肯づか
れる而してこゝの一郭は稍靜かな田園の風趣を

有し二三別荘と一二の溫泉宿がある。

新しい長岡溫泉を去つて南方に溫泉地を求むれば次で来るものは古い而して日本有數の溫泉地たる修善寺である。地は狩野川西側の一支谷内にあつて、高距は低いけれども山中の一佳境を成して居る、河中に湧出する獨鈷の湯は名高いものであるが他にも數多くの源泉があつて湯量は豊富である。谷は東西行し従つて湧泉は東西に分布されては居るが附近の凝灰岩中に北北西—南南東の裂罅あるを以て見れば溫泉は此の方向の裂罅より出づるもので三線の溫泉脈があることを想定される。設備の整ふた客舎のあることは附近に源氏末衰期に於ける史蹟のあることと相俟つて滯留客をして靜養を恣にする所以である。

狩野川を其の左岸に沿うて南方に溯りゆけば修善寺川と本流との合流點なる月見岡より三里弱にして月ヶ瀬といふ小部落に達する足下に追つて北流する狩野川西枝の水中に溫泉を湧出し中洲上の冬も暖かさうな家に浴槽がある。溫度

浴槽に於て攝氏三十七度二分しかない。現に西岸に深井を掘鑿中である。

月ヶ瀬の西方に船原、南西に吉奈の溫泉場がある。共に狩野川西側の支谷内にあつて其の間に一山脊を距てゝ居る。共に幽邃な處で殊に吉奈に於ては溪流の屈曲する邊七箇所に溫度攝氏五十五度に達する溫泉を湧出し溫泉宿の亭榭が點在して居る。猶谷の上手には蕭洒たる貸別荘地がある。こゝでも源泉は主として西北西から東南東に向つて配置されてはゐるが溪畔の山崖には變朽安山岩が露出して居て内に北二十四度西と北二十五度西とに走る二條の裂罅を觀察した。狩野川をなほ溯ると湯ヶ島の部落に達する、部落の南西狩野川を隔てゝ湯ヶ島溫泉場がある。こゝは西方棚場山及猫越峠方面の水を集めて東流し來る湯ヶ島川と狩野川との合流點に位し谷深く溪流に最も親しむ事の出來る溫泉場である。奥伊豆に入るべく天城峠を越え、河津川に沿うて南東に下れば湯ヶ野に小溫泉場がある。徒歩探勝者の足溜りとするに足りる。

南伊豆の溫泉中で名の知られてゐるのは蓮臺寺あるのみであるが、近時下賀茂で鑿井によつて著しい噴騰湯を得たのは著しいことである。

蓮臺寺は伊豆の良港下田の北一里餘にあつて下田街道より西に入ること數町の東西に長き谷野の北側に位する。東にある下の湯が主要溫泉場で六戸の旅館があり、西にある上の湯には二戸の質素な旅館がある。下の湯に十七個の源泉があつて東方に少しく離れた一つを除くと北微西の方向に長き一帯中に包含される。北部は漸次に高き緩斜地を爲し直に山に接して居る。昨年の關東地震殊に十二月三十一日午後三時の地方的地震後は溫泉の湧出量を減じ溫度を低下したといふことで最高のものでも攝氏四十四度半に過ぎなく、多數のものは入浴に適しなくなつた然し主要溫泉脈は各源泉の性状及北方の山形に顯はれた細些な形貌等から北微西に走つて丁度溫泉地帯の中央を通つて居るのを推定すること出来るのである。本春私のこゝを半日訪れた後に村の人達は山際の方へ深さ四十尺の鑿井を

試みて五十七度の湯を獲たと傳聞した。下の湯と上の湯との中間にも五箇所の源泉があつて他の一群を成して居る。上の湯にも亦他の一溫泉脈があるものゝ如くで最西の源泉は岩脈だと思はれる石英安山岩の小さな崖の近くにあつて溫度が五十一度ある、一體に上の湯の各泉は地震後却つて熱くなつたといふことである。下の湯の地震に對する影響の異なることから見れば其の原因は地表から深くない處の狀態の變化によるので決して溫泉自身に關する重大な變化があつたものとは認められない、蓮臺寺は此の後も永く下田に寄港する船人の入浴を續ける處であり得るのは明かなことである。

蓮臺寺の北東に當り下田街道の西側に河内の小溫泉場がある。電氣唧筒による揚湯によつて大きな水泳の出来る風呂と、隨意の湯錢を竹筒に入湯者の投げ入れて行く共同風呂が目につく。

下賀茂は伊豆の西南西約三里、手石川の河谷に沿うた處である。東西半里の間に點々として

源泉がある。東方によつた小字湯の元には温泉宿が四軒と温成による速催栽培處と海軍療養所の源泉があり、西方によつた小字原には寶の湯及嶽の湯と名けられた沸騰湯がある。巻頭圖版

第二版は寶の湯の噴湯の有様であつて現今では小な噴騰泉は閉塞して了つた。これは大正十一年に掘鑿されたもので深さ三十間に達したといふ現に地上約十尺の高さまで一分時間に一斗の湧出量で沸騰して居る。温度噴泉の周囲の溜りの中で四十九度である。味鹹くして噴泉口には石灰華がつき易い。此の湯は現に使用されてゐない。第二の噴騰泉嶽の湯は寶の湯の東方にあつて地上十三尺に噴騰し一分時間四斗二升の噴出量があるといふ、四十九度の温度を計つたが噴湯管内に二尺塞暖計を差し込むと攝氏百五度の温度ありと聞いた。實際百度に達するものであるのは嶽の湯の猶東方にある元湯と稱する鑿井で百度を計つたので想像され得る。嶽の湯は現に引湯して使用してゐる、而して此等の温泉が固形分に富んでゐるのは石灰華の多く生じて

居るのでも判るが寶の湯を東京衛生試験所で分析した結果に據々と千分中に含有する固形分は約十六分にして、其の主要成分は次の如くである。

クロールカリウム

〇・四六一九

クロールナトリウム

九・六八五二

クロールカルチウム

五・八三〇六

硫酸カルチウム

〇・二六八八

此の外にブロームナトリウム、硫酸マグネシウム等を含んでゐる。これ程固形分に富んだ温泉は伊豆の他の所では見ない所である。

伊豆の西海岸に土肥の温泉がある。この一温泉で第三即ち西列の温泉帯を代表してゐる。こゝは古來金山があるので有名な處であるが交通便は沼津よりする汽船の便があるのみで未だ甚しく繁榮なるに到らない。

若し夫れ伊豆の探勝を行はんが爲め日に日に數里の行程を踏破せば大多數は温泉地に宿泊する事が出来る。而して伊豆半島の地文は複雑にして東岸に磯波のよする斷崖の地貌あり、南岸には三尊窟を初め石室岬四近の聳立せる岩礁多

き集塊岩の奇勝あり、西岸には其の口に砂洲又は礫洲を横へたる小灣入の羅列がある。又陸上には新舊幾多の階梯にある火山がある。火山及

海岸の良き觀察地としての伊豆は旅行者の疲勞を癒すべき温泉を神經結節の様に散在せしめて居る。

鹽 原 温 泉

佐 藤 生

風光の明媚と温泉の豊富とを以て有名なる鹽原温泉は下野國鹽谷郡の北部に位し、下鹽原、中鹽原、上鹽原、湯本鹽原の四大字より成り立ちて居り皆鹽原火山の北麓である箒川溪谷ノ中にある、但し新湯温泉のみは新湯寒生火山の新湯爆裂火口内にある。大綱、福渡、鹽釜、鹽の湯、畑下、門前、雄卷、古町、新湯、湯本の十ヶ所であつて即ち鹽原十湯と稱するものは是れであつて、其の湧出口は總て四十三を數ふることが出来る。斯の如く多數の湧出口があるのは當該地方の地下の等温線が火山作用の爲めに地

表に近つけるによることは固よりであるが、箒川の溪谷が此の地層の斷層の方向を直交することとは其の主なる原因である云はねばならぬ。大綱温泉は鹽原景勝の地の門戸たる關谷より一里九町にして鹽原温泉場に至るに當り第一に遭遇するところのものである。湧出口は著しきもの二つありて一を石間湯と稱し、一を河原の湯と稱す、共に道路から一町内外の急地を上り箒川の河岸の第三紀に屬する斑綠白色凝灰岩中から湧出する、弱アルカリ性であつて、溫度攝氏五十度硫化水素を多く含み、瘡毒、疥癬に特